

日本カリキュラム学会

第 32 回琉球大学 web 大会プログラム

2021 年 6 月 26 日（土）～6 月 27 日（日）

第 32 回大会実行委員会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
琉球大学教育学部
（委員長 上地完治）

E-mail : jscs32ryukyu@gmail.com

学会 HP : <http://jscs.b.la9.jp/>

日本カリキュラム学会

第 32 回琉球大学 web 大会プログラム

◆ 第 1 日 2021 年 6 月 26 日（土）

10 : 00	課題研究 I 全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに及ぼす影響とその改善を考える —沖縄県の事例を参考に—	課題研究 II カリキュラムの「不易と流行」を語る II —学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法—
12 : 00	昼食	
13 : 00	自由研究発表 I	
15 : 00	休憩	
15 : 30	シンポジウム 新しい時代を切り拓く平和教育のあり方について	
17 : 30		

◆ 第 2 日 2021 年 6 月 27 日（日）

10 : 00	自由研究発表 II	
12 : 00	休息・昼食	
12 : 45	総会	
13 : 20	休憩	
13 : 30	課題研究 III 教育内容論としてのカリキュラム研究再考—資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ—	課題研究 IV 民主主義と国家の現状と課題—市民性教育の在り方を考える—
15 : 30	休憩	
15 : 45	自主企画セッション	
17 : 15		

大会参加要領

1. 開催方法

Zoom を用いたオンラインで開催します。大会に参加するためには事前に Zoom のアプリをインストールする必要があります。Zoom ミーティングの URL 等の連絡は、大会参加申込手続きの際に記入したメールアドレスに 6 月下旬にお送りする予定です。

2. 大会参加申込

事前に参加申込が必要です。 学会ホームページ上の大会参加申込フォームからお申し込みください。6月18日（金）締切です。

3. 大会参加費

- ・次の通りです。会員サービス向上のため、正会員・学生会員の大会参加費を例年よりも安く設定しました。一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。
- ・大会参加費は6月18日（金）までにお振り込みください。 お振り込みいただく口座名義・口座番号は、大会参加申込いただいた際の返信メールに記載されています。
- ・大会参加費の振込先は参加申込業務委託先の「株式会社コムラ」名義の口座となります。

大会参加費	正会員	2,000 円
	学生会員	1,000 円
	臨時会員	3,000 円

4. 自由研究発表・シンポジウム・課題研究・自主企画セッションについて

- ・マイクをミュート（消音）にしてご参加ください。
- ・自由研究発表・シンポジウム・課題研究の発表要旨は、大会ホームページに掲載されています。
- ・自由研究発表・シンポジウム・課題研究・自主企画セッションの発表資料は、大会ホームページに掲載されています。ただし、発表の中には発表資料がないものもあります。
- ・資料のお取り扱いには十分ご注意ください。

5. 問い合わせ先（大会事務局）

日本カリキュラム学会 第 32 回大会実行委員会

住所：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

琉球大学教育学部 上地完治研究室

E-mail : jscs32ryukyu@gmail.com

※ご不明な点等につきましては、E-mail にて実行委員会までお問い合わせ願います。

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

個人研究発表 発表 20 分 質疑討議 5 分 (計 25 分)

共同研究発表 発表 40 分 質疑討議 10 分 (計 50 分)

2. 発表中止の場合

発表を取りやめる場合は、必ず事前に大会実行委員会まで E-mail にてご連絡ください。なお、発表中止にともなう発表時間の繰り上げは行いません。

第1日（6月26日）10:00～12:00

課題研究Ⅰ

全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに
及ぼす影響とその改善を考える—沖縄県の事例を参考に—

全国学力・学習状況調査が2007年に始まり14年が経過した。地域の格差の減少に一定の効果があったという文部科学省の見解の一方で、成績の公表による各自治体へのプレッシャーや“対策”に対する批判も存在している。貧困等の社会文化的状況と調査結果の関係も指摘されている。2014年から小学校における調査結果の向上をみた沖縄県はこの調査による影響や地域の状況を象徴する側面がある。

本課題研究では沖縄県の事例を参考に全国学力・学習状況調査が各学校のカリキュラムに及ぼす影響について検討する。学力向上を掲げた結果重視型の教育政策はそのねらいを達成できたといえるのかどうか、成果と課題を率直に出し合い、議論を今後のカリキュラムの改善に向けた具体的な提案につなげたい。

<発表者>

- ・教育社会学の立場から 山田哲也（一橋大学）
- ・地方教育行政の立場から 天願直光（宜野湾市立志真志小学校／
前沖縄県教育庁義務教育課学力
向上推進室）
- ・沖縄の学校から 村瀬公胤（一般社団法人麻布教育研究所）

<司会>

田中統治（放送大学）
高橋亜希子（南山大学）

<コーディネーター>

木原俊行（大阪教育大学）
西岡加名恵（京都大学）

第1日（6月26日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ

カリキュラムの「不易と流行」を語るⅡ
—学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法—

本課題研究は広報・若手育成委員会の担当による2019年度の課題研究の継承企画であり、その趣旨は「先輩研究者が、その研究領域に対する思いや研究の姿勢、配慮すべき事柄などを経験や学術的知見を踏まえて語り、それを受けて、中堅・若手研究者が当該研究対象に関する自己のかかわり方や抱負等を述べ、協議を通して研究的な示唆を得る」ことであった。

今回も前回同様、日本のカリキュラム研究において重要な位置を占める「学習指導要領」をテーマとして取り上げる。ただし、前回と異なり、教育課程行政の外側から、学習指導要領を対象化した研究的なかわり方の検討に重点を置くこととし、先輩研究者として学習指導要領の歴史的研究において多くの蓄積のある水原克敏会員をむかえる。教育政策史研究の立場からカリキュラムの研究の原則について語られる。これを受けて、根津朋実会員より、教育課程等教育をめぐる主要言説の改変時に、そうした状況をいかに捉えてきたのかについて自身の研究的なかわり方を中心に語られる。八田幸恵会員は学習指導要領の改訂において「問題」とされてきた点を歴史的に整理した上で、自身が今後学習指導要領と研究的に向き合う際の課題を論じられる。根津会員も八田会員も、水原会員の『学習指導要領は国民形成の設計書』（東北大学出版会）に触発された内容が話される予定である。参加者の方にはこの文献に事前に目を通された上で参加されることにより、議論がより深まることが期待される。

<発表者>

- ・学習指導要領の教育政策史研究
—歴史的方法によるカリキュラム原則の探究—
水原克敏（尚絅学院大学）
- ・自身の研究方法にみられる傾向—「外」と「対」—
根津朋実（早稲田大学）
- ・カリキュラムの領域論の意義
—学習指導要領編成に関わる基本的問題のリスト化に向けて—
八田幸恵（大阪教育大学）

<司会・コーディネーター>

- 金馬国晴（横浜国立大学）
- 富士原紀絵（お茶の水女子大学）

第1日目（6月26日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 1

司会 上野正道（上智大学）
遠座知恵（東京学芸大学）

- 13:00 19世紀イギリスにおける初等教育カリキュラム論に関する検討
——T.H.ハクスリーと M.アーノルドの比較を通じて
本宮裕示郎（千里金蘭大学）
- 13:25 社会的効率主義と J.L.メリアムとの関係性
西野雄一郎（愛知教育大学）
- 13:50 政治教育の形成に関する基礎的研究
—プロイセンとオーストリアの教育課程基準の分析—
近藤孝弘（早稲田大学）

全体討論（14:15～15:00）

自由研究 I - 2

司会 子安潤（中部大学）
谷田増幸（兵庫教育大学）

- 13:00 オーストラリアのシティズンシップ教育におけるナショナル・アイデンティティの形成
— “Discovering Democracy Units” を手がかりに—
両角遼平（広島大学大学院）
- 13:25 「記憶」の学習をカリキュラムにどう位置づけるのか
—イタリアの市民性教育から見えてくる課題—
徳永俊太（京都教育大学）
- 13:50 特別の教科「道徳」のカリキュラムに関する考察
—児童の実態調査を通じた実践的研究—
木村憲太郎（岸和田市立八木小学校）
- 14:15 「逆向き設計」論を用いた道徳科の年間指導計画の作成と運用
中野真悟（刈谷市立富士松南小学校）

全体討論（14:40～15:00）

第1日目（6月26日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I-3

司会 小柳和喜雄（関西大学）

根津朋実（早稲田大学）

13:00 コロナ禍における学校づくりのためのカリキュラム・マネジメント

八弮明美（知多市立旭東小学校）

13:25 権力の集中とその空洞化の中で進む既成事実への屈伏

磯田文雄（花園大学）

13:50 カリキュラム・マネジメントを通じたプロフェッショナル・キャピタル構築に関する研究（その1）

ーカリキュラム・マネジメント概念に関する先行研究分析ー

○千々布敏弥（国立教育政策研究所）

○倉本哲男（横浜国立大学）

○田村知子（大阪教育大学）

全体討論（14:40～15:00）

自由研究 I-4

司会 唐木清志（筑波大学）

草原和博（広島大学）

13:00 社会科カリキュラムにおける総合概念の検討

ー社会科論争を手がかりとしてー

堀田貴之（愛知県立碧南工科高等学校）

13:25 社会科教師のゲートキーピング

～米・豪・西の授業参観・インタビュー・板書と教室掲示から～

酒井喜八郎（南九州大学）

13:50 授業に公共的空間を生み出す小学校社会科カリキュラムの構造

ーダブルダイヤモンドモデルに着目してー

鈴木正行（香川大学）

全体討論（14:15～15:00）

第1日目（6月26日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I -5

司会 木原俊行（大阪教育大学）

村川雅弘（甲南女子大学）

13:00 思考力を育てるカリキュラムとは何か

浅沼茂（立正大学）

13:25 高校の探究学習でよく学んでいるのはどんな生徒か

—教科学習と探究学習の対比に着目して—

田中孝平（京都大学大学院／日本学術振興会特別研究員 DC）

13:50 高等学校教員は探究学習をどう受け止めているのか

—「越境による共創」に関する意識と行動に注目して—

○安藤福光（兵庫教育大学）

緩利誠（昭和女子大学）

14:15 精神的に自立した人間を育てるカリキュラム開発

—教科する教科学習と省察性を高める人間道徳の実践を通して—

小野智史（香川大学教育学部附属高松中学校）

全体討論（14:40～15:00）

自由研究 I -6

司会 藤川聡（北海道教育大学）

吉富芳正（明星大学）

13:00 中学校における「学級目標」の効果的な活用に関する探索的検討

園部友里恵（三重大学）

13:25 「真正な学び」に向けた特別活動におけるカリキュラム・マネジメントの考察—ALACT モデルに焦点化した中等教育における生徒

会活動実践から—

作田澄泰（早稲田大学総合研究機構教師教育研究所）

13:50 高等学校運動部活動における事故等予防教育のあり方

—学校事故事例検索データベース及び質問紙調査を基にして—

橘田進（帝京平成大学）

14:15 アメリカ合衆国の音楽教育における新自由主義の影響と社会正義

—ヒップホップの授業を行う教師の意図をめぐって—

磯田三津子（埼玉大学）

全体討論（14:40～15:00）

第1日（6月26日）15:30～17:30

シンポジウム

新しい時代を切り拓く平和教育のあり方について

「沖縄」という地名は、青い空、青い海、暖かな気候、ゆっくりと流れる時間、といった南国の楽園のようなイメージを多くの日本人に想起させるようだ。しかし、「沖縄」は、同時に、戦争、地上戦、集団自決、27年間のアメリカ統治といった過去の暗い記憶を惹起せずにはおれない言葉でもある。そして、こうしたイメージは過去にとどまらず、現在でも米軍基地の問題—とりわけ新基地建設をめぐる政治的対立—として持続している。前者のイメージを光と呼び、後者のイメージを影と呼ぶならば、年間の観光客数が2019年に1千万人を越えた—これは同年にハワイを訪れた観光客数を越えた数であった—観光立県「沖縄」は、こうした光と影が交錯してその立像を切り結んでいることになる。

この影の部分の経験を伝承し、反省し、未来へ生かそうとする取組を総じて平和教育と呼ぶならば、それは沖縄の根幹の一部を形成する重要な教育活動であり社会活動であるといえる。沖縄におけるこうした平和教育の象徴として、平和祈念公園にある沖縄県平和祈念資料館や平和の礎(いしじ)、そしてひめゆり平和祈念資料館が挙げられる。1989年に設立されたひめゆり平和祈念資料館の設立理由には、「戦争を知らない世代が人口の過半数を超え、未だ紛争の絶えない国内・国際情勢を思うにつけ、私たちは一人ひとりの体験した戦争の恐ろしさを語り継いでいく必要があると痛感せざるをえません」と、沖縄県における平和教育の真髄ともいえるべき信念が記されている。

しかしながら、沖縄にかぎらず、日本、いや世界中で、平和教育はある種の局面—曲がり角—を迎えているといえる。それは、第2次世界大戦の経験者が高齢化によって経験の語り部としての第一線から退き、戦争の非経験者が同じ非経験者に戦争体験を伝えなければならない時代のことをさしている。この新しい時代では、過去の経験を単純に伝えることそれ自体が困難となり、平和教育をこの過去の経験の伝承だけで完遂するものと捉えることは不可能となる。

さらにいえば、平和教育がいつも平和を推進する「光」の存在であるという保証はどこにもない、という事実にも配慮が必要である。教育という営みがつねに善であるというのは神話であり、第2次世界大戦において日本の戦争遂行の原動力として学校教育が重要な役割を果たしたことも、忘れられてはならない教訓である。先述したひめゆり平和祈念資料館の設立

理由の一節にも、「私たちに何の疑念も抱かせず、むしろ積極的に戦場に向かわせたあの時代の教育の恐ろしさを忘れていません」とある。こうした観点からも、平和教育は新しい局面を迎えているといえるのである。

こうした新しい局面を迎えている平和教育について新しい構想を描くために、専門とする領域の異なる4名のシンポジストをお招きした。普天間朝佳氏は、自らも沖縄戦を経験していない館長として、戦争の記憶の風化と、戦争の非経験者が同じ非経験者に戦争体験を伝えるという課題に日々取り組まれている方である。山口剛史氏は平和教育を専門とする研究者で、沖縄の学校で展開されている平和教育について理論的・実践的に語っていただく。金鍾成氏は、日本とアメリカの小・中学生による「より良いヒロシマ教科書づくり」プロジェクトの事例をもとに、「対話型」の国際理解から展開する平和教育についてご提案いただく。教育哲学者である山名淳氏には記憶の教育学という観点から平和教育について理論的示唆を提示していただく予定である。

地上戦の生々しい記憶がいまだに傷跡を残し、米軍基地問題がいまだ過去の話とはならないこの沖縄にある琉球大学を大会校とする今回、平和教育についての多方面からの刺激的な議論が飛び交い、結びつき、あるいは切り結び、知的な化学反応を起こして新しい平和教育への視座を生み出すこと—それが本シンポジウムのねらいである。

<登壇者>

- ・ 沖縄戦の記憶を語り継ぐ立場から
普天間朝佳（ひめゆり平和祈念資料館館長）
- ・ 沖縄の平和教育の立場から
山口剛史（琉球大学）
- ・ 他国の語りに開かれた市民育成を目指す「対話型」平和教育の観点から
金鍾成（広島大学）
- ・ 記憶の教育学の立場から
山名淳（東京大学）

<司会>

上地完治（琉球大学） 寺田佳孝（東京経済大学）

<コーディネーター>

上地完治（琉球大学）

第2日目（6月27日）10:00～12:00

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-1

司会 川地亜弥子（神戸大学）
橋本美保（東京学芸大学）

- 10:00 鶴居滋一による合科カリキュラムの開発過程
—生活単元の開発と教師の成長—
望月ユリオ（東京学芸大学大学院）
- 10:25 大正新教育の実践に与えたゲマインシャフト・シューレの影響
—情報流入の経緯と普及状況の整理—
香山太輝（東京学芸大学大学院）
- 10:50 西口槌太郎による戦後新教育カリキュラム開発
大西慎也（京都ノートルダム女子大学）
- 11:15 創設期における総合的な学習の時間が目指した「生きる力」の実践
—愛知県西尾市立西尾小学校の「町づくり総合学習」の場合—
白井克尚（愛知東邦大学）

全体討論（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ-2

司会 安藤輝次（前関西大学）
西岡加名恵（京都大学）

- 10:00 コロナ禍におけるカリキュラムマネジメントに関する検討
—教育委員会による学校への指導・助言と学校における実践に着目して—
○島田希（大阪市立大学）
田村知子（大阪教育大学）
木原俊行（大阪教育大学）
- 10:25 危機的状況下の学校におけるカリキュラムマネジメントに対する
市町村教育委員会の施策—新型コロナウイルス感染症の影響による
臨時休業期間中と学校再開後の支援—
田村知子（大阪教育大学）
- 10:50 学校教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの実践
研究—「イノベーション力の育成」をめざして—
○飯岡裕介（久喜市立久喜小学校）
○浅野信彦（文教大学）

全体討論（11:40～12:00）

第2日目(6月27日) 10:00~12:00

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-3

司会 高橋英児(山梨大学)

富士原紀絵(お茶の水女子大学)

10:00 ウィネットカ・プランにおける小・中学校の連携
—連続的カリキュラムの開発過程—

宮野尚(日本学術振興会特別研究員)

10:25 「コンピテンシー・ベース」のカリキュラム開発の理論と方法

兵藤清一(愛媛大学)

10:50 学力と関わる小中一貫教育の取り組みに対する児童生徒と教員の
意識に関する研究

小柳和喜雄(関西大学)

全体討論(11:15~12:00)

自由研究Ⅱ-4

司会 高橋亜希子(南山大学)

緩利誠(昭和女子大学)

10:00 手続的概念を基盤とした系統的な歴史教育カリキュラムの特質
—Learning Progressions 研究の知見を踏まえた評価指標に着目
して—

玉井慎也(広島大学大学院)

10:25 多視点的授業(Mehrperspektivischer Unterricht)における「教え」
の位置価— CIEL プロジェクト(1971-1975)に対する「教師中心
性」批判の再検証—

田中怜(育英大学)

10:50 家庭学習と連動した授業について
—個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して—

○和田佐和子(北海道美深町立美深小学校)

藤川聡(北海道教育大学)

11:15 外部評価としての保護者の鑑識眼に関する研究
—1年生における道徳ノートへのコメントに着目して—

浦郷淳(長崎国際大学)

全体討論(11:40~12:00)

第2日目（6月27日）10:00～12:00

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-5

司会 澤田稔（上智大学）
松下晴彦（名古屋大学）

- 10:00 E. ホーキンズによる言語教育のカリキュラム論：
「言語への認識（Awareness of Language）」概念に着目して
小柳亜季（京都大学大学院）
- 10:25 M.ヤングのパワフル・ナレッジ（powerful knowledge）論の教科
教育界での受容・展開—教科教育学の諸相と教育社会学—
志村喬（上越教育大学）
- 10:50 誰にでも専門知を権利として保障することの意義と課題
—マイケル・F・D・ヤングを焦点に—
○柳田雅明（青山学院大学）
○中野和光（美作大学）
志村喬（上越教育大学）
小谷卓也（大阪大谷大学）

全体討論（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ-6

司会 木村裕（滋賀県立大学）
柴田好章（名古屋大学）

- 10:00 大学キャリア教育科目のカリキュラム・マネジメント
—質保証に向けた課題と考察—
長田尚子（立命館大学）
- 10:25 国立高専機構モデルコアカリキュラム（MCC）に関する考察
—高専教育システムの海外展開に着目した分析視点の導出—
田上哲（九州大学）
- 10:50 交通教育の再検討
—SDGs、地域公共交通という観点から—
○池田考司（北海道教育大学）
○前田敏章（スローライフ交通教育の会）

全体討論（11:40～12:00）

第2日目（6月27日）10:00～12:00

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-7

司会 竹川慎哉（愛知教育大学）

森久佳（京都女子大学）

10:00 カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階
のカリキュラム等の開発

○吉富芳正（明星大学）

○村川雅弘（甲南女子大学）

○石塚等（横浜国立大学）

田村知子（大阪教育大学）

倉見昇一（兵庫教育大学）

10:50 Society5.0 に必須の教員像の確立に向けた研修体制・研修プロ
グラムのデザイン-令和元年度と2年度との比較を通して-

○磯部征尊（愛知教育大学）

○倉本哲男（横浜国立大学）

伊藤大輔（秋田県立大学）

全体討論（11:40～12:00）

第2日（6月27日）13:30～15:30

課題研究Ⅲ

教育内容論としてのカリキュラム研究再考
—資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ—

ポストモダンという局面をくぐり抜けた近年のカリキュラム研究において経験論や学習論が強調される傾向が強まっている。対してカリキュラム論の中心であるはずの教育内容論（内容の選択、およびその選択を支える価値論）が空洞化しているという議論も浮上してきている。これらの論点を深めるために（1）学問、（2）子ども、（3）現代社会という3つのファクターから検討する。

<発表者>

- ・ 学問としてのカリキュラム研究の現状とその価値論
石井英真（京都大学）
- ・ 認知心理学並びに21世紀型スキル論等の観点から
益川弘如（聖心女子大学）
- ・ 現代社会とカリキュラムのポストモダンの局面
澤田稔（上智大学）

<指定討論者>

松下佳代（京都大学）

<司会>

的場正美（東海学園大学）
村川雅弘（甲南女子大学）

<コーディネーター>

村川雅弘（甲南女子大学）
草原和博（広島大学）

第2日（6月27日）13:30～15:30

課題研究IV

民主主義と国家の現状と課題
－市民性教育の在り方を考える－

東西冷戦の終焉以降、民主主義と資本主義の一層の広がりが、世界の安定と協調を促すのではないかとの見方が共有されてきた。しかし、その後の世界の現実には、国家間の分断と対立が進行し、相互依存関係の中でありながら自国中心主義が台頭している。一方、民主政治の仕組みをとる国は増加の傾向にあると言われてきたが、実際には様々なタイプの政治が出現している。国内の状況に目を転じると、民主的な意思決定システムにおける国家と地方、国際関係の在り方や、代議制を通じて成立した行政機構に対する権力抑制の在り方が問われている。

民主主義と国家について取り扱い、政治社会の形成者を育てる教育は、市民性教育、政治教育として、それぞれの国の歴史と状況の中で展開されてきた。どのような政治社会の状況の中で、どのような市民像が描かれ市民性教育や政治教育が展開されているのか、その有効性や課題はどこにあるか。これらの点に迫るため、本課題研究では、民主主義と国家に関わる現状と課題を概観すると同時に、アメリカ、ドイツにおける政治社会の現状と市民性教育、アジアにおける民主化の動きと学校教育等について取り上げる。これらの検討を通して、今後の市民性教育のカリキュラムの在り方を展望する。

<発表者>

- ・民主政を支える「市民」的な連帯の欠如
－沖縄から見える日本の政治と市民性教育－ 島袋純（琉球大学）
- ・米国のスタンダードに基づく教育改革下における市民性教育関係者の葛藤と戦略－社会科教育・多文化教育の議論を中心に－
齊藤仁一朗（東海大学）
- ・ドイツの政治教育と民主主義の学習－教育と政治の関係性を考える－
寺田佳孝（東京経済大学）
- ・アジアにおける市民性教育の限界 磯田文雄（花園大学）

<指定討論者>

浅沼茂（立正大学） 近藤孝弘（早稲田大学）

<司会・コーディネーター>

工藤文三（浦和大学） 倉本哲男（横浜国立大学）

第2日目（6月27日）15:45～17:15

自主企画セッションⅠ（ラウンドテーブル）

ヨーロッパの大学入試と探究的な学習

わたしたちのグループは、『変動する大学入試』（大修館書店）を2020年に刊行し、日本の大学入試改革の合わせ鏡として、ヨーロッパ諸国の大学入試を具体的に検討した。ここで取り上げた国々では、学校の日常的な学習と全国的な統一試験を組み合わせた形で後期中等教育修了資格試験改革を進めていることが明らかになった。

そうした改革において、探究的な学習を中等教育修了資格の要件に組み入れている国も見られた。探究的な学習は、昨今日本でも注目されているが、ヨーロッパでは、教育課程への導入が進められているのみならず、このようにハイスティクスな資格の要件としても位置付けられつつある。後期中等教育において探究的な学習を重視するのであれば、それがハイスティクスな試験にどう関連するのかを考えることは重要であろう。

このラウンドテーブルでは、『変動する大学入試』で十分に言及できなかった後期中等教育修了資格試験と探究的な学習について、ヨーロッパのいくつかの国の動向を報告する。報告では、探究的な学習の特徴的な取り組み、また探求的な学習の評価の方法、その意義と課題を検討する。それによって、大学入試というハイスティクスな試験における探究的な学習の関係性および可能性を見出してみたい。

<企画者>

伊藤実歩子（立教大学）

<発表者>

- ・イタリアの場合 徳永俊太（京都教育大学）
- ・オーストリアの場合 伊藤実歩子（立教大学）
- ・スウェーデンの場合 本所恵（金沢大学）
- ・イギリスの場合 二宮衆一（和歌山大学）

<指定討論>

森久佳（京都女子大学）

<司会>

藤本和久（慶応義塾大学） 奥山好美（兵庫教育大学）

第2日目（6月27日）15:45～17:15

自主企画セッションⅡ（ラウンドテーブル）

対話型論証による学びのデザイン

——知識とスキルにおける教科固有性と汎用性——

「対話型論証（dialogical argumentation）」とは、ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動のことである。

1990年代頃から提唱されてきた〈新しい能力〉には、「問題解決」「論理的思考」「批判的思考」「コミュニケーション」などが含まれている。しかし、こうした能力は知識との結びつきが不明確で、各分野・教科の特質も捉えにくい。対話型論証は、これらをばらばらな能力要素ではなく、一まとまりの活動として示したものである。私たちはさらに対話型論証の考え方を表現したモデルを開発し、中学校・高校の総合学習や教科学習、そして大学の初年次教育・専門教育などで実践してきた。この「対話型論証モデル」はツールミン・モデルを拡張したものだが、多様な分野・教科やそれらを横断する学びを、その特質を損なうことなくデザインすることを可能にする。

本ラウンドテーブルでは、まず、松下報告でこのような対話型論証の理論的土台について論じ、田中報告で高校における探究学習での実践を、生徒の作品などとあわせて紹介する。

これらの発表に対して、指定討論者の草原会員には、社会科における探究学習の視点から、対話型論証の意義と課題について論じていただき、石田会員には、目標論・評価論の立場から、建設的批判を加えていただく予定である。

モデレーターの遠藤会員には、この2対2の議論から何か新しいものを産み出すお手伝いをしていただきたいと考えている。

<企画者>松下佳代（京都大学）

<発表者>

・「対話型論証による学びのデザイン——その考え方とモデル——」

松下佳代（京都大学）

・「高校の探究学習における対話型論証の実践」

田中孝平（京都大学大学院、日本学術振興会特別研究員）

<指定討論者>草原和博（広島大学）

石田智敬（京都大学大学院、日本学術振興会特別研究員）

<モデレーター>遠藤貴広（福井大学）

第2日目（6月27日）15:45～17:15

自主企画セッションⅢ（ラウンドテーブル）

大阪市生野南小学校・田島中学校における『生きる』教育

——困難を乗り越える知識と自己肯定感を保障するために——

大阪市立生野南小学校は、社会経済的に厳しい条件のもとにある子どもたちが、多数通ってくる学校の一つである。貧困などを背景とした様々な困難に直面している当校では、10年前には、荒れる子どもたちの実態が見られた。その背景に、虐待によるトラウマがあることを見て取った当校の先生方は、一人ひとりの子どもの「安心・安全」を保障し、暴力ではなく「ことば」で伝え合う力を育てる実践に取り組み始めた。これにより、学力が向上し、荒れもおさまった。

さらに、2016年度以降、「虐待予防教育」、「ライフストーリーワーク」、ならびに「障がい者理解教育」から構成される独自の教育プログラム『生きる』教育の開発・実践が進められた。『生きる』教育は、現在では、子どもたちが進学する田島中学校にも広がり、9年間のプログラムとなっている。また、大阪市の「性・生教育」や文部科学省の「生命（いのち）の安全教育」のモデルともなっている。

本ラウンドテーブルでは、生野南小学校の研究主任として『生きる』教育の開発を進めてこられた小野太恵子教諭に実践をご報告いただくとともに、その理論的基盤を提供された西澤哲教授（臨床福祉学）にお話を伺うことで、同様の困難を抱えている学校現場への示唆を得たい。

※なお、終了後、引き続き同じZoomミーティングにて、30分間の座談会を予定している。ご希望の方にはご予約いただきたい。

<発表者>

- ・『生きる』教育の実践——9年間のプログラム

小野太恵子（大阪市立生野南小学校）

- ・虐待の連鎖を断ち切るために教育現場ができること

西澤哲（山梨県立大学・非会員）

<指定討論者>

川地亜弥子（神戸大学）

<企画者・司会者>

西岡加名恵（京都大学）

カラー図解 よくわかる!

教師を目指すための 高大接続のしくみ

林 裕子/監修著 竜田 徹/著

佐賀大学高大連携プロジェクトの一環で進めている「教師へのとびら」をもとに、未来の教師を育成するための高大接続のしくみについて解説するための図解本。



定価：1980円(税込) 978-4-487-81437-4

大学生のための教科書

中山芳一・西岡杏誠・八島京平/監修 大学生のための教科書編集委員会/編著

これからの時代に求められ、社会に出てからも幸せに生きられる「主体性2.0」といったスキルなど、大学生が卒業までに身につけたい能力を把握し、理想の自分像を見つけられる一冊。

▶ 主体性2.0に求められる3つの条件

どんな私(主体)で
ありたいか

5つの行動特性
(非認知能力*)

自分を
コントロール

*好奇心、楽観性、冒険心、柔軟性、持続性

入学したら、
すぐに読もう!



定価：1650円(税込) 978-4-487-81487-9

GIGAスクールで 実現する新しい学び

1人1台環境での学力向上と全職員でのオンライン学習

赤堀侃司・堀田龍也・久保田善彦/監修

つくば市教育局総合教育研究所・つくば市立みどりの学園義務教育学校/編著

どんな年代の先生でもできる!

つくば市立みどりの学園義務教育学校の多くの実践事例をもとに1人1台環境での学力向上とオンライン学習の取り組み方法がわかる!



定価：1600円(税込) 978-4-487-81357-5



お問い合わせは出版事業部 Tel:03-5390-7531 Fax:03-5390-7538

沖縄出張所 〒900-0025 那覇市壺川1-2-1 Tel:098-834-8084 Fax:098-834-8095

ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

最新刊

「書く」ことによる学生の自己形成

文章表現「パーソナル・ライティング」の実践を通じて
谷美奈著 A5・上製・一八四頁・二六四〇円

大学におけるライティング支援

関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編
A5・並製・二四〇頁・二六四〇円

大学教育の数学的リテラシー

水町龍一編著 A5・並製・三四四頁・三五一〇円

大学のキャリアリテラシーマネジメント

中留武昭著 A5・上製・二九六頁・三五一〇円

ストリー中心型カリキュラムの理論と実践

根本淳子・鈴木克明編著 A5・並製・二五六頁・三七四〇円

いま、教育と教育学を問い直す

森田尚人・松浦良充編著 A5・上製・三四四頁・三五一〇円

教育的関係の解釈学

坂越正樹監修 丸山恭司・山名淳編 A5・上製・二八〇頁・三〇八〇円

文字と音声の比較教育文化史研究

添田晴雄著 A5・上製・四〇〇頁・五二八〇円

実践から考える金融教育の現在と未来

編集代表 大澤克美・松尾直博・東條憲二 A5・並製・二六四頁・二六四〇円

空間と時間の教育史

宮本健市郎著 A5・上製・五八四頁・五二八〇円

協働・対話による社会科授業の創造

梅津正美編著 A5・上製・三二二頁・三五一〇円

社会科教育の未来

西村公孝 梅津正美・伊藤直之・井上奈穂編著 A5・上製・二七二頁・三〇八〇円

現代アメリカにおける学力形成論の展開

石井英真著 A5・上製・五三三頁・五二八〇円

最新刊

③ 社会に生きる個性

自己と他者・拡張パーソナリティ・エージェンシー
四六・並製・二〇八頁・一六五〇円

② 学習とパーソナリティ

「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ」をどう見るか
四六・並製・二四八頁・一七六〇円

① アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性

四六・並製・一八四頁・一〇〇〇円

若者のアイデンティティ形成

学校から仕事への
ジェームズ・E・コテ&チャールズ・レビン著
A5・上製・二九六頁・三五一〇円

教学マネジメントと内部質保証の実質化

大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著 A5・上製・三四四頁・三五一〇円

2040年 大学教育の展望

山田礼子著 A5・上製・二八八頁・三八五〇円

2040年 大学よ甦れ

力ギは自律的改革と創造的連携にある
田中弘充・佐藤博明・田原博人著 A5・上製・二四〇頁・二六四〇円

エビデンスの時代のFD

現在から未来への架橋
A.L.ピーチ他著 林透・深野政之他訳 A5・並製・二四八頁・三〇八〇円

世界のテスト・ガバナンス

日本の学力テストの行く末を探る
佐藤仁・北野秋男編著 A5・上製・二六四頁・三五一〇円

湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証

中島悠介著 A5・上製・二七二頁・四一八〇円

米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜

福岡 祐貴 A5・上製・三六〇頁・三九六〇円

現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革

教室・学校・地域の
連関の創造
古田雄一著 A5・上製・三二二頁・四六二〇円

アメリカ教育例外主義の終焉

ジェフリー・ヘニグ著 青木栄一監訳 A5・上製・三三〇頁・三九六〇円

関連書

溝上慎一著

学びと成長の講話シリーズ

20% OFF

特価

注文書

アマゾン

楽天

フックス

honto

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6

http://www.toshindo-pub.com

TEL 03-3818-5521

FAX 03-3818-5514

Email tk203444@fsinet.or.jp

新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究

宇都宮明子著

一〇四五〇円

地理科地理と市民科地理の教育課程編成論比較研究

伊藤 直之著

八二五〇円

米国社会科学成り立期におけるシテイズンシップ教育の変容

斉藤仁一朗著

九九〇〇円

ウイネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程

宮野 尚著

八二五〇円

近代日本書字教育史研究

鈴木 貴史著

九九〇〇円

社会科学教育へのケイパビリティ・アプローチ

志村 喬編著

三三〇〇円

中等社会系教科教育研究

中平一義・茨木智志・志村喬編著

一九八〇円

大学生のための初等社会科学概論

田部俊充編著

一七六〇円

近代日本郷土教育実践史研究

板橋 孝幸著

一〇四五〇円

占領期日本における学校評価政策に関する研究

福嶋 尚子著

二二六五〇円

現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携

濱谷 佳奈著

九三三〇円

ジェームズ・カマーの学校開発プログラム研究

藤岡 恭子著

九九〇〇円

日本の高校生に対する法教育改革の方向性

橋本康弘・土井真一・佐伯昌彦・吉村功太郎編著

三三五〇円

風 間 書 房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

https://www.kazamashobo.co.jp
E-mail pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円(448円+税)

2021年 特集

- 7・8月合併号 令和の時代の学級経営
- 6月号 改めて指導と評価の一体化を考える
- 5月号 令和の日本型学校教育の学校経営と教育活動の展望
- 4月号 「見方・考え方」を適切に働かせる学習指導について
- 3月号 教育の情報化とGIGAスクールを考える
- 1・2月合併号 WITHCORONA時代の教育の方向性
- 2020年 特集
 - 12月号 第49回教育展望WEBセミナー 分科会報告
 - 11月号 第49回教育展望WEBセミナー 全体会報告
 - 10月号 学校の危機管理を改めて考える
 - 9月号 ポストコロナ時代の教育を考える
 - 7・8月合併号 深い学びの実現に向けて
 - 6月号 教科等横断の視点に立った教育
 - 5月号 社会的資質や行動を育む生徒指導とは
 - 4月号 授業研究と豊かな授業づくり
 - 3月号 新学習指導要領で求められる評価とは
 - 1・2月合併号 学校とは何か！改めて教育を問い直す！

「教育展望」臨時増刊

A5判、定価2619円(2381円+税)

No.53 (第50回教育展望セミナー) 2021年7月発行予定、120頁予定

変革の時代の学校教育を展望する

―令和の日本型学校教育をどのように進めるか―

No.52 (第49回教育展望セミナー) 2020年7月発行、114頁

これからの時代に向けた教育の改革と創造II

―学習の基盤となる資質・能力や現代的な課題に対応する資質・能力をどのように育成するか―

教育調査研究所

一般財団法人

(理事長 新井郁男)

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
TEL: 03-3520-2970 FAX: 03-5579-6574
E-Mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

〔編集復刻版〕 幼児教育資料アーカイブ3

幼小接続資料集成 全7巻 別冊1

- 体裁Ⅱ A4判2面付(第6巻・B5判/第7巻・A5判)・上製・総約4,800頁 ○ 編集・解説Ⅱ 太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵
- 推薦Ⅱ 汐見稔幸・無藤隆
- 全3回配本 揃定価Ⅱ 1,622,800円

新刊!

本集成は全国各地の幼小接続への取り組みから、特にお茶の水女子大学、神戸大学などの附属学校園における報告書、実践記録を精選、復刻する。幼児教育から小学校教育へのなめらかな移行とはなにか? 各校資料に加えGHQ/SCAAPによって進められたIFEL(教育指導者講習)による幻の雑誌『幼年教育』をはじめ、坂元彦太郎・羽仁説子らによる論考も収録。

構成Ⅱ 第1巻「お茶の水女子大学」/第2巻「奈良女子大学」/第3巻「神戸大学」/第4巻「東京学芸大学」/第5巻「和光大学」ほか/第6・7巻「幼年教育1・2」/別冊解説

〔編集復刻版〕

大正新教育学級・学校経営重要文献選

- 全10巻 ○ 体裁Ⅱ A5判・上製・総4,026頁
- 編集・解説Ⅱ 橋本美保・遠座知恵
- 推薦Ⅱ 天笠茂・佐藤学
- 全II期・全3回配本 揃定価Ⅱ 1,998,000円

現場「教育の現実」から学ぼうとした、大正新教育期における教育者たちの実践の記録から、カリキュラム・マネジメントという視点で「学級経営」「学校経営」に関する論考・文献を精選、復刻する初めての試み!

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道 2-10-10
TEL.03-5981-6704 FAX.03-5981-6705
URL <http://www.fujishuppan.co.jp>

各回分売可
内容見本・目録送付
価格税込 (10%)



高等学校 教科と探究の新しい学習評価

観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集

指導要領改訂に伴い、高校の学習評価が大きく変わる。観点別評価の導入、パフォーマンス評価の推奨等、新たな動きを分かりやすく解説。

西岡 加名恵 編著 ● B5判・192ページ ● 定価2,640円(税込) ● ISBN 978-4-7619-2673-1

対象：高校教師

主な内容(目次より)

第1部(理論編) 2018年改訂 学習指導要領と新たな学力評価

- 1 パフォーマンス評価の開発と活用 —カリキュラムと指導の改善にどうつなげるか—
- 2 ルーブリックの開発と活用
- 3 ポートフォリオ評価法と一枚ポートフォリオ評価 —学びと授業改善のための設計と活用—

第2部(実践編) パフォーマンス評価の実践事例集

ほか

いま 高校教育の「現在」がわかる雑誌

月刊 高校教育

月刊 高校教育 4 毎月13日発売

定価 1,045円(税込)

年間誌代 14,905円(税込)
※特大号1冊・増刊2冊を含む



詳しくは、「学事出版」ホームページをご覧ください。ご注文もできます。 <https://www.gakuji.co.jp>

G学事出版

千代田区外神田2-2-3 TEL03-3253-4626 FAX 03-0120-655-514

未来の教育を創る教職教養指針シリーズ

山崎準二・高野和子 編集代表

カリキュラム・マネジメントと教育課程

金馬国晴 編著 ●定価2200円 192頁

教科と総合の教育方法・技術

子安潤 編著 ●定価2200円 192頁

SDGsと学校教育

総合的な学習／探究の時間

—持続可能な未来の創造と探究

小玉敏也・金馬国晴・岩本泰 編著 ●定価2200円 200頁

教師のための教育学シリーズ

教師のための教育学シリーズ編集委員会 監

教育課程論 第二版

山田雅彦 編著 ●定価2310円 208頁

教育方法とカリキュラム・マネジメント

高橋純 編著 ●定価2530円 200頁

「ESDでひらく未来」シリーズ

教育の課程と方法 —持続可能で包摂的な未来のために

鈴木敏正・降旗信一 編著 ●定価2530円 240頁

現代カリキュラム研究 第二版

—学校におけるカリキュラム開発の課題と方法

山口満 編著 ●定価3300円 376頁

検証・全国学力調査

—悉皆式を止め、抽出式で3年に一度で ●定価1430円 126頁
吉益敏文・瀧田郁夫・久富善之・教育科学研究会 編

国際バカロレア教育と教員養成

—未来をつくる教師教育 ●定価2530円 176頁

東京学芸大学国際バカロレア教育研究会 編

赤羽寿夫・佐々木幸寿・原健二・藤野智子 編著

学校ガバナンス改革と危機に立つ 「教職の専門性」

浜田博文 編著 ●定価3850円 240頁

SDGsカリキュラムの創造

—ESDから広がる持続可能な未来

田中治彦・奈須正裕・藤原孝章 編著 ●定価2200円 210頁

小学校社会科カリキュラムの新構想

—地理を基盤とした小学校社会科カリキュラムの提案

佐藤浩樹 著 ●定価2640円 200頁

教育課程編成論 改訂版

森山賢一 編著 ●定価2200円 192頁

教師教育テキストシリーズ 9

教育課程 第二版

山崎準二 編著 ●定価2090円 200頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigy@gakubunsha.com

カリキュラム 研究事典

日本カリキュラム学会
代表理事
松下佳代先生
推薦！

クレイグ・クライデル 編

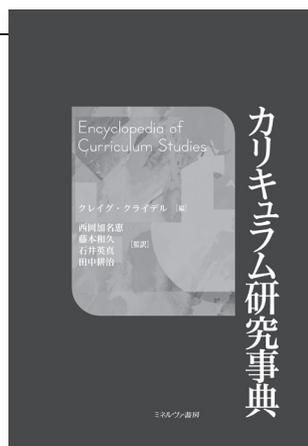
西岡加名恵/藤本和久/石井英真/田中耕治 監訳

B5判上製カバー函入・予840頁・予価格税込22,000円(予価20,000円+税)

ISBN 978-4-623-08754-9 2021年6月下旬刊行予定

【本事典のポイント】

- ◎ カリキュラム論の発祥地・アメリカでつくられたカリキュラム研究事典の翻訳書
- ◎ カリキュラム研究の基本から周辺研究の解説まで全505項目を収録した「読む事典」
- ◎ 京都大学大学院教育学研究科教育方法学研究室のOB・OGメンバーが総力を結集して翻訳した、日本の教育への示唆を与える一冊
- ◎ 原著 Craig Kridel (Ed.) *Encyclopedia of Curriculum Studies*. Vol.1-2. SAGE Publications, 2010.)



【項目例】(全505項目)

- 【伝記と人物研究】 デューイ, ジョン/ノディングス, ネル/フレイレ, パウロ/ほか
- 【概念と用語】 学級経営/ケアリングの概念/螺旋型カリキュラム/ほか
- 【内容の解説】 科学教育カリキュラム/キャリア教育のカリキュラム/教師教育カリキュラム(専門性開発)/中等後教育のカリキュラム/ほか
- 【カリキュラム研究への影響】 どの子ども置きかりにしない(NCLB)/ピアジェの思想/フーコーの思想/ほか
- 【探究と研究】 ジェンダー研究/質的研究/人種研究/量的研究/ほか
- 【カリキュラム研究の特質】 カリキュラム研究の定義と次元/カリキュラム・リーダーシップ/教育史の研究領域に関連するカリキュラム研究/ほか
- 【組織, 学校, プロジェクト】 エッセンシャル・スクール連盟/全米教育学会/八年研究/ほか
- 【出版物】 『危機に立つ国家』/『教育の過程』/『教育目標の分類学 ハンドブック I——認知領域』/ほか
- 【理論的なパースペクティブ【見方】】 進歩主義教育の概念/タイラー原理/批判的ペダゴジー/ほか
- 【カリキュラムの類型】 隠れたカリキュラム/子ども中心カリキュラム/コンピテンシーに基づくカリキュラム/ほか

【編者(原書)】

クレイグ・クライデル (Craig Kridel) サウスカロライナ大学教育博物館館長
アメリカのカリキュラム論史研究の重鎮。学会の代表や学術誌の編集等を務める。
「八年研究」の研究者

西岡加名恵 (にしおか かなえ)
京都大学大学院教育学研究科教授

石井英真 (いしい てるまさ)
京都大学大学院教育学研究科准教授

【監訳者】

藤本和久 (ふじもと かずひさ)
慶應義塾大学教職課程センター教授

田中耕治 (たなか こうじ)
佛光大学教育学部教授, 京都大学名誉教授

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1* 表示価格税込 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/